



はし うえ こ 橋の上の子どもたち

ヴェンカトラマン作 た なか な つ こ こうだんしゃ
田中奈津子訳 講談社

あたしはヴィジ。十一歳。夢は先生になること。ある夜、暴力をふるう父さんから逃げ出した。姉さんのラクといっしょに。見た目も幼く、たどたどしくしかしゃべれないラクを守るのはあたしだけだから。たどりついた大きな街のぼろぼろの橋で、アルルとムトウという男の子に出会った。あたしは自分で稼ぐため、ふたりといっしょにゴミの山に入ることにした。飢えや貧困、きびしい状況にあっても、人生を変えるため、強く生きていく子どもたちの物語。

